

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスヤシノキ（放デイ）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		～ 2025年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日		～ 2025年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・地域との関わり（地域イベの参加、交流等）	・地域で行っているイベントに参加し、地域と子供たちの交流をとっている。地域で過ごすことで、地域の人たちの理解度が深まり、より一層社会と子どもたちとの安心で安全な居場所に繋げていっている	地域の方を招いたイベントを実施したり、自ら自発的に発言したり、行動できるような取り組みを考えていきたい。
2	障がいや特性の違いにとらわれず、様々な児童が共に一緒に過ごすことで、本人たちの経験が増えていく。	発達特性の違いがある児童が同じ空間で、共に過ごすことで、時には自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くなどの間に指導員がはいることで、言語化したり、自分で伝える力をサポートし、本人たちの経験を増やしていく。	一緒に共に過ごすことで、他者への興味関心など、自ら進んでいく場面を増やしていく取り組みをしていきたい。指導員が間に入る場合も、スモールステップで、自分から行動する場面や出来たという場面を増やしていきたい。

3	・ソーシャルスキルトレーニングにそったプログラムに力をいれている。	ソーシャルスキルトレーニングに沿ったプログラムを毎日日替わりで行っている。同じようなSSTやロールプレイでも、中身を変更するなどの工夫が来ている。事前に指導員が療育前に決めたことを共有し、実際にどのように指導していくか話し合うこともしている。	今まで通り、全員に当てはまること無い限り、内容は日々変化していく必要がある。児童ひとりひとり特性が違うので、児童に合った療育かSSTかどうか、振り返りをし、次に繋げることで、次のステップへつなげることができると思う。
---	-----------------------------------	---	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言語聴覚士がいない。	言葉が不明瞭な児童へのサポートや、療育に課題がある。	言葉が不明瞭な児童へのサポートは、本児がゆっくりと安心して話せる環境を作っていく。言語指導など、ことばのトレーニングなどを取り入れる工夫を引き続き行っていく。絵本の読み聞かせや、言葉の引き出しや、口のトレーニングなどを増やしていきたい。
2	一軒家ということもあり、階段があること。玄関は、車いすなどのバリアフリーに特化していない部分があるところ。	・2階へ上がる階段があること。玄関には、段差があること。	・ドアについては、ドアノブの位置を通常より高い位置に設置しており、鍵もつけている。階段では、必ず職員が見守りを行い、児童の安全を確認するようにしている。
3	職員と家族さま（保護者）との交流の時間を増やしたい。	予定などの都合で、なかなか参加が出来ないご家族さまもおられること。	2カ月に1度は、家族さんが気軽に参加できるイベントや、行事、保護者会などを実施していきたい。そこに指導員（職員）の参加も含めて、全員が顔をみて安心できる環境づくりをしていきたい。